

FRONT LINE

二輪と四輪の安全運転技術を極めるという
教習指導員の理想を追求する

山口県萩自動車学校 副管理者・業務部長

波田昌之さん

交通教育センターレインボー浜名湖の協力を
得ながら浜名湖カップを開催

10月3日、交通教育センターレインボー浜名湖で第6回浜名湖カップが開催された。この浜名湖カップは教習指導員の有志を中心に安全運転技術を競う大会で、これを主催し、運営しているのが山口県萩自動車学校（山口県萩市）教習指導員の波田昌之さんである。波田さんは、本田技研工業（株）安全運転普及本部が主催する全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会（以下、指導員大会）に第1回（2001年）から出場。第5回大会（2005年）の二輪部門で総合優勝を果たした。

指導員大会がなければ、
何も始まらなかつた

「指導員大会に出場し始めた頃は入賞することだけにこだわっていました」と波田さんは振り返る。その後、出場を重ねるうちに、教習指導員としてのあり方を考えるようになったそう。好成績を残したとしても、それを普段の教習に活かさなければ意味がありません。自分が練習や指導員大会で学んだことを教習生はもちろん他の教習指導員とも共有したいと思いました。

波田さんはまず、山口県内の教習指導員とともに指導員大会に向けた二輪の合同練習会を始めた。当初、県内の教習指導員だけで行われていたが、年を追うごとに口コミで広がり、九州や関西の教習指導員も山口県に集まってきた。そして、山口県外にも遠征して練習会を開催するようになる。

「指導員大会がなければ、何も始まらなかったと思います。他県の教習指導員は指導員大会ではライバルになりますが、合同練習会で意見を交わすようになります。同じ志を持つ仲間だと感じるようになりました」と波田さんはいふ。

仲間との縁をいつまでも
続けていくために

2010年から指導員大会の参加資格に関する規則の変更で、出場回数が制限されることとなった。これにともなうて、出場できなくなる教習指導員が出てくるようになったのである。波田さんは指導員大会を通じてできた仲間との縁をいつまでも続けていきたいと考え、教習指導員が競技を通じて交流を深められる大会を新たにすることに決めた。会場は合同練習会でも利用していた交通教育センターレインボー浜名湖。大会の名称は浜名湖カップとした。

浜名湖カップは公式に告知や募集はしていないが、毎回50名前後の出場者が集まる。出場資格も教習指導員に限定せず、参加費を支払えば誰でもエントリーできる。「レベルが高いと思って参加をためらう教習指導員もいると考え、チャレンジャー部門（下記参照）を設けました。

この部門には、安全運転技術を追求したいという想いがあれば一般の人でも出場できます」。

浜名湖カップでは各部門の入賞者にトロフィーが贈られる。そのトロフィーには「考乗心」という言葉が刻まれている。練習中に「なぜ、そうなるのか」「どうすれば、良くなるのか」を考えて取り組むことは、教習生が理解しやすいアドバイスにつながる。そうした意識を常に持つてほしいというのが、浜名湖カップを通じて波田さんが伝えたいことだ。

四輪教習の指導力向上が
今後の課題

昨年まで浜名湖カップは二輪競技のみで実施されてきたが、波田さんは6回目を迎えた今年、四輪競技を追加することにした。「私は本物の教習指導員を育てたいと思っています。それは二輪と四輪、両方の安全運転技術を極めた教習指導員です。二輪に関しては、練習会や浜名湖カップに参加していれば、教習生に何を聞かれても、適切なアドバイスができる

ようになるでしょう。二輪は楽しいので、教習指導員は四輪よりも二輪に注力してしまいがちです。そのため、私たちがとって四輪の指導力向上が大きな課題と考えています」。

波田さんが四輪に力を入れようとしている理由はもう1つある。それは「若者のクルマ離れ」だ。「教習指導員もクルマ好きは減っていると感じています」と波田さんは危惧する。「運転を教える教習指導員がクルマを好きでなければ、若者にクルマを好きになってもらえるわけがありません。私たちはクルマや運転技術に関する引き出しをもっと増やし、若者の興味・関心を高める工夫が必要で

す」。

波田さんは今年6月に開催された第16回指導員大会の四輪部門に出場し、競技の1つ「ブレーキング回避」で3位入賞という結果を残した。

「教習指導員の多くは四輪を主にしています。今後は、四輪の指導力向上にも目を向けてもらえるよう、浜名湖カップを利用して盛り上げていきたい」と波田さんは力強く語った。

第6回浜名湖カップ

浜名湖カップは毎年秋季に静岡県浜松市にある交通教育センターレインボー浜名湖で開催されている。全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会または過去の浜名湖カップで入賞経験がある教習指導員を対象にしたレジェンド部門、それ以外の教習指導員と一般の参加希望者を対象にしたチャレンジャー部門がある。各部門に分かれ、二輪競技（一本橋、コーススラローム）、四輪競技（クランクスラローム）に取り組み、安全運転技術を競う。今回のレジェンド部門・総合1位は小池祐次さん（瀬戸自動車学校）、チャレンジャー部門・総合1位は駒井和幸さん（一般参加）となった。



今回はレジェンド部門に28名、チャレンジャー部門に19名が出場

二輪競技（一本橋、コーススラローム）。出場者は自分が競技に出ない時は審判を担当する

今年から取り入れた四輪競技
（クランクスラローム）

※全国自動車教習所教習指導員安全運転競技大会=全国の自動車教習指導員の自己研鑽への動機づけや、他の教習所との交流の場を提供することを目的に2001年より毎年、鈴鹿サーキット交通教育センターで開催されている大会。二輪部門、四輪部門に分かれ、2日間にわたって競技が行われる。2016年は27都府県82校から142名の選手が参加した。